

【論文】

ソーシャルワーク実践における文化的課題に関する基礎的研究

ーソーシャルワークの中国における定着化に向けてー

黄 慧 娟

和文抄録

本稿はソーシャルワークの定着化を促進するために、文献レビューを通して中国のソーシャルワーク実践で生じる文化的課題を明らかにした。結果、中国のソーシャルワーク実践において、【クライアントへのアプローチがしにくい】、【『個』に焦点を当てる支援が実践されにくい】、【専門的な援助関係が保たれにくい】という三つの課題が生じていることがわかった。また、課題の文化的背景として、【集団主義的な特性】、【権威主義的な特性】、【人間関係構造の特徴】、【倫理道德の特徴】という四つのカテゴリーを生成した。さらに、それらの課題と背景を包括的に捉え、課題間の関係性を分析することで、実践現場で生じる文化的課題の全体像を考察した。最後に、文化的課題の捉える視点および今後の課題を検討した。

キーワード：ソーシャルワーク実践，中国文化，定着化，文献研究

I. 研究背景及び研究目的

「ソーシャルワークとは、様々な社会生活上の困難を抱える人々や、何らかの援助が必要な人々とその生活状況に関わりながら、困難な状況の改善や緩和、そして日常生活の安定を目指す生活支援の方法や技術である。そして、その実践を担っているのが、社会福祉専門職としてのソーシャルワーカーである」(空閑 2012: 1)。人々の社会生活は、その地域の文化によって必ず影響を受けるため、その生活の支援のあり方は異なることになる。さらに、ソーシャルワーカー自身も育った地

域の文化に影響されるため、支援を行う際に、ソーシャルワークの理念や価値観と、既に内在化されている自らの文化との間で葛藤し、目の前のクライアントに馴染む支援のあり方を模索し続けている。

中国におけるソーシャルワークは、1910年代に外国人宣教師を通じて福祉施設に導入された(彭 2020: 2)。しかし、依然としてソーシャルワーク、特にその学問の核心となる価値や理念がどのように中国の文化や中国人の日常生活に馴染むのかは不明確なままだという指摘もある(李賀・馬文静 2023: 47)。言い換えれば、中国人の生き方や日常生活の特徴に配慮した「中国型ソーシャルワークモデル」は確立されておらず、「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義(以下、「グローバル定義」)の中国における展開」もまだ作成されていない状況である。

2024年6月3日受付/2024年12月7日受理
HUANG Huijuan
同志社大学大学院社会学研究科
E-mail: cybg0101@mail2.doshisha.ac.jp

例えば、中国では「助人自助」がソーシャルワークの理念として広く認識されている(任文后 2016: 55)。「助人自助」は「助」と「人自助」という二つの意味で構成されており、その人が自力で問題解決できるように支援するということを指す(王思斌 2014: 23)。これに基づき、現場のソーシャルワーカーは常に目の前のクライアントの潜在的な思いやニーズを見出し、彼らの問題解決能力を発掘し向上させ、最終的には自身の抱える課題を乗り越えられるよう支援することを目標としている。しかし、ソーシャルワークの理念や価値が存在していても、実際にクライアントの日常生活に関わる中で、文化などの影響によりクライアントの意思決定支援などが非常に難しい場合が多く、現場のワーカーはソーシャルワークの理念を中国の実情にどのように展開していくか悩んでいるのである。

それについて、中国の研究者たちは少なくとも30年前からこうしたソーシャルワークの文化的課題を検討し始めた(蔡 1993)。当時、中国のソーシャルワークの展開を研究する王思斌(1995: 103)は欧米のソーシャルワークを鵜呑みすることを批判し、このような受け入れ方は「ソーシャルワークを本質的な観点からではなく、外見の形式から定義し、あるいは中国の実際を西洋の社会福祉の基準で評価していると言える」と指摘した。

その後、中国におけるソーシャルワークの定着化をめぐり、中国の文化とソーシャルワークの価値、理念との融合が絶えず取り上げられてきたが、その融合の仕方については、研究者たちの間に意見の相違がある。そしてその意見の相違は、中国の文化とソーシャルワークの専門性のどちらをより重視するかによって生じられているものとも言える。具体的に言うと、中国の文化への尊重を優先し、それを主体とし、ソーシャルワークをそれに適合させるような考え方もあれば(楊暉 2007; 付 2008; 黄 2011; 史 2011; 劉娜娜 2012 等)、中国文化に適合させることは大事であるが、ソーシャルワークの専門性の維持は融合の前提とする考え方もある(儲・孫 2013; 黄

2013; 常 2013; 任雪 2015 等)。それに対して近年は、ソーシャルワークと中国文化は二項対立的な関係ではなく、両者とも配慮しながら融合すべきという主張されるようになってきている(何・楊 2019; 鄭 2019; 尹 2020; 魏 2020 等)。結果として、どのようにソーシャルワークを中国文化とうまく融合し、対人援助現場に定着化させるのかについて未だに中国のソーシャルワーク学界においては合意が得られていない。

こうした文化的差異によるソーシャルワークの定着や展開における葛藤は、中国だけでなく、ソーシャルワークを受け入れたすべての国が抱えている課題であると言える。その中で、白澤・岩間(2011: iv)は「ソーシャルワークの研究は、その実践と未分化であり、理論と実践は相互に関連し合いながら発展していく。ソーシャルワーク研究がその両者の間に介在し、実践に影響を与える存在となり得た時、その研究は普遍的な意味を持ち、後世に影響を与えることになる」と述べた。要するに、ソーシャルワークを研究するには、理論上の検討だけでは不十分であり、実践と照らし合わせる事が非常に重要である。そして、ソーシャルワークの実践とは「クライアントが日常的に営む生活に関わるものである」(空閑 2012: 1)。したがって、ソーシャルワークの中国における定着を研究する際には、そこで生活している人々の生き方や日常活動に関わる実践現場で生じている葛藤や悩みと向き合い、それを吟味することが求められる。なぜなら、ソーシャルワークは人々の生活を支援することを目的としているが、人々の生活や生き方は、必ずしも理論やモデル通りにはならないからである。

しかし現に、中国におけるソーシャルワークの定着に関する研究は、依然として理論上の検討が主流であり、実践研究や実践との照合を通じたさらなる検討がいまだに非常に不十分であることが近年指摘されている(杜 2020: 43; 張明陽 2023: 7)。そこで本研究は、中国のソーシャルワークの定着化をよりスムーズに進めるために、まず文献レビューを通して、中国ソーシャルワーク実践における課題及びその文化的背景を明確に

する。また、課題と背景要因を包括的に見ることにより、現場に取り込まれている状況の全体図を明らかにする。さらに以上の分析を踏まえ、中国におけるソーシャルワークの定着化に向かって、今後求められる取り組みを提示することを目的とする。

Ⅱ. 本研究における「文化」及び「文化的課題」の捉え方

ソーシャルワークの実践における文化的課題を検討する前に、まずここでいう「文化」とは何を指しているのかを説明する必要がある。日本のソーシャルワークの展開を研究する空閑（2005: 46）は、「文化への理解は、あくまでもその国や地域に生きる人間やその生活の理解のために必要なのである。そして、日本人の文化、いわゆる『日本人らしさ』とされるものは、日本人の人間存在のあり方から生み出されている行動や意思決定の仕方、その他生活の様々な側面にみられる特徴である」と述べた。つまり、人々の日常生活や生き方の支援を図るソーシャルワーク研究における「文化」とは、彼らの生き方、或いは日常生活の営みの中で現れている思考方式または行動様式を指しているということである。そして、本研究における「文化的課題」とは、こうした人々の思考方式や行動様式を背景として、ソーシャルワーク支援の展開において生じる課題を指している。

Ⅲ. 研究方法

本研究は文献研究法を用いる。中国のソーシャルワークの定着化にあたっての文化的課題を分析するため、「中国知網（CNKI）」にてソーシャルワークを意味する「社会工作」と定着化を意味する「本土化」、「文化」をキーワードとして主題レベルで検索を行った結果、462本が検出された（2024年2月20日時点）。

462本の文献のうち、閲覧不可、会議や活動報告など学術論文でない文献6本を除外した。また、本研究の主旨である中国のソーシャルワーク

の定着化にあたって、援助活動における文化的課題を明らかにするという本研究の趣旨と合致していない人材育成、まちづくり、ソーシャルワーカー団体・NPO組織の運営などの文献216本を除外した。さらに、中国のソーシャルワークの援助場面において文化的課題に関する具体的な指摘のないソーシャルワークの発展をめぐる政策環境、動向などの文献186本を除外した結果、54本が抽出された。

抽出された文献の中、「文献検討に基づき、西洋と異なる中国文化の特徴を論じ、ソーシャルワークの価値や理念が現場で定着しにくい点を明らかにした論文」は22本、「事例研究・事例分析に基づいた論文」は6本、「支援者（主にソーシャルワーカー）に対するインタビュー調査に基づいた論文」は10本、「支援対象者に対するインタビュー調査に基づいた論文」は1本、「特定のプロジェクト、または特定の福祉施設やソーシャルワーカー事務所での実践をケースとして、参与観察およびその支援者・支援対象者の両方へのインタビュー調査に基づいた論文」は11本、「多領域にわたり、支援者と支援対象者をセットとしたインタビュー調査に基づいた論文」は2本、「量的調査と質的調査の混合法に基づいた論文」は2本である。

次に、54件の文献の中、ソーシャルワーク実践における課題、課題の文化的背景に該当する記述を比較・対比した。大木（2013: 73-85）の文献統合の手順を参考し、54件の文献から抽出した実践における課題、課題の文化的背景を示す記述内容（ローデータ）をそれぞれ断片化し、その類似性と相違性に注目しながらまとめ、カテゴリ生成を行った。本文中では、記述内容は〔 〕、コードは〈 〉、カテゴリは【 】で表記した。

Ⅳ. 分析結果

1. 中国のソーシャルワーク実践における課題

抽出された54件の文献の中、「中国のソーシャルワーク実践における課題」に関する記述内容を断片化した結果、計127の記述内容を得た。

次に、各記述内容が類似したものの同士をグループ化すると、【クライアントへのアプローチがしにくい】【『個』に焦点を当てる支援が実践されにくい】【専門的な援助関係が保たれにくい】の三つ

のカテゴリーにまとめられた(表1)。具体的にそれぞれの課題をみると、まず【クライアントへのアプローチがしにくい】は〈ワーカーへの不信・不安による訪問・介入の拒否〉

表1 中国のソーシャルワーク実践における課題(筆者作成)

【カテゴリー】	〈コード〉	【記述内容】
【クライアントへのアプローチがしにくい】	〈ワーカーへの不信・不安による訪問・介入の拒否〉	[最大の問題はクライアントの訪問または、課題を抱えているクライアントが積極的にワーカーに助けを求めないことである] (常 2013)。[一般的に、助けを求める際には、身内の人だけに頼るという消極的な傾向が見られる] (儲・孫 2013)。[クライアントは就職活動において、特に支援者との信頼関係を重視している。これは、支援者が提供する求人情報が信頼できるかどうかは、クライアントと情報提供者との信頼関係の度合いによって判断されるからである。そのため、顔の見知らぬワーカーは自然に対象外となる] (丁雨 2022)。[特に農村地域では、村民と友人関係を築かない限り、ワーカーに助けを求めることはない] (董寧 2021)。[クライアントは『外の人』であるワーカーの介入に対して抵抗感を示すことがある] (黄 2011)。[クライアントは困難に直面したとき、まず親戚や友人に助けを求め、次に近所の人や同僚など、自分がよく知っている人に助けを求める。ソーシャルワーカーに対して積極的に支援を求めることは少ない] (關 2016)。[中国では、人々は関係の親疎遠近に基づいて助けを求める相手を選ぶ、よく知らない人や団体には助けを求めない] (李宜 2019)。[ソーシャルワーカーという『よそ者』からの助けを受け入れるのは難しい] (李永敏 2011)。[顔の見知らぬ人に対する不信感から、クライアントは『外の人』に助けを求めることに慣れていない] (劉娜 2012)。[『外の人』に助けを求めるのを嫌がる傾向がある] (任雪 2015)。[多くのクライアントは見知らぬ人からの電話や訪問に対して抵抗感を持っている] (盛 2016)。[特に家庭内で問題が生じた場合、クライアントは通常親戚や友人に助けを求め、ワーカーの介入を拒否する] (史 2011)。[中国人は返報や恩返しを重視しており、明確な報いの方法がわからない場合、ワーカーのような見知らぬ人からの助けを受け入れることに遠慮がある] (唐 2022)。[どのような返しを支払うべきかが不明な場合、クライアントはなかなか助けを受け入れない] (王春霞 2006) [助けを求める対象を選ぶ際には、自分がよく知っている人を選ぶ傾向がある。これは、単につながりがあるだけでなく、知っている人との間で、リソースのやり取りがより安心できるからである] (王藍瑤 2023)。[クライアントは、顔の見知らぬソーシャルワーカーの介入に抵抗を示し、自分の本当の考えをなかなかワーカーに話さないことがある] (王雪燕 2018)。[クライアントが危機に直面した際、助けを求める対象は親しい人や仲の良い人である傾向がある。なぜなら、彼らはクライアントにとって『身内』であり、信頼できる相手だからである。信頼の基準は、双方がその関係性にどれだけ感情を込めているかによる] (王雪穎 2021)。[農民が困難に直面したとき、助けを求める順序として、血縁(親戚)→地縁(村人)→外部(政府)という順番で決めることが多い。なぜなら、親しい人に対して自然と信頼感を持っているからである] (張・馬 2019)。[自分(クライアント)の家に外の人が入介入するのを望まないことがある] (鄭 2019)。[困難に直面したとき、最初に考えるのは親や知人に助けを求めることであり、ソーシャルワーカーではない] (庄・譚 2012)。
	〈恥による介入の拒否〉	[中国人は家庭内の事情や問題を外部の人に見せることを嫌がっている] (陳金羽 2022)。[他人の助けを受け入れたくない、自分の困難な状況が他人の嘲笑の対象になることを恐れている] (李明 2016)。[問題解決のために来たソーシャルワーカーに対して警戒し、自分の本当の考えをなかなかワーカーに話さないことがある] (王雪燕 2018)。[クライアントは気になって、支援の介入を嫌がる] (李宜 2019)。[『家の恥を外にさらさない』という考えの影響で、クライアントは家庭内の問題を他人にさらけ出すことに抵抗を感じる] (劉璐 2023)。[『家の恥を外にさらさない』という理由でソーシャルワーカーの支援を拒否することもある] (楊・于 2019)。
	〈公的サービス利用への抵抗〉	[家族、家庭の範囲を超えることにはあまり関心がなく、関わりもしたくない。公共活動の参加意欲が低い] (常 2013)。[多くの高齢者は社会的な老人ホームに行くことを望まない。彼らは、老人ホームに行くのは捨てられた高齢者だけだと考え、自分には家族がいるから絶対に行かないと思っている。また、多くの若い人たちは親を老人ホームに送ることを無能で不孝な行為と見なしているため、抵抗がある] (李成 2016)。[中国では、子どもが親を介護することが伝統であり、施設に行くことを望まない] (李明 2016)。[孝文化の影響で、家族ケアを受けることが最善の選択とされ、クライアントは老人ホームに入ることを受け入れられない] (劉璐 2023)。[親しい人との交流を好みだが、公共活動の参加はあまり赤拳ではない] (任雪 2015)。[多くの高齢者は老人ホームに行くことを望まない。また、多くの若者が高齢者を老人ホームに送ることを望まず、それを不孝だと考えている] (史 2011)。[精神障害を持つ人のケアは、一般的に家族がすべきだと考えられている] (王春霞 2006)。[多くの人は、親を老人ホームに入れることは不孝で無能な行為だと考えている] (鄭 2019)。[多くの人は家庭や集団を中心に生活しており、公共の活動には参加しない] (鄭 2019)。
	〈助けを求めることへの抑制〉	[クライアントは他人に助けを求めるという考えや行動をできるだけ抑えようとする傾向がある] (王李源 2021)。
【『個』に焦点を当てる支援が実践されにくい】	〈クライアントが自身のことより周囲への配慮と感情が強い〉	[多くのクライアントは、子供の幸福や家庭の一体感を、個人の満足や成長よりも重要だと考えている] (陳紅莉 2006)。[もしワーカーがクライアント自身の意思表示を強調しすぎて、クライアントとその家族との関係を見落とすと、クライアントの心情や彼らが抱える課題を理解しにくくなる可能性がある] (馬 2015)。[クライアントが置かれている『人間関係ネットワーク』の重視が求められる] (何・楊 2019)。[支援対象者にとって『義理人情』や『人間関係』がいかに重要であるかをワーカーが考慮すべきである] (黄 2013)。[クライアントの個人的な利益と家庭の利益が衝突する場合、ワーカーは家庭の利益や関係、安定を、クライアントのニーズや権利よりも優先すべきだと考えている] (熊 2016)。[高齢者(クライアント)が意思決定を行う際に、家庭や子供、さらには支援者の利益のために、自分の利益を犠牲にすることもある] (劉璐 2023)。[クライアントが意思決定を行う際、家庭の利益を優先し、自分自身の利益やニーズを考慮することは少ない] (魏 2020)。[支援対象者の中には、コミュニティとの関係性を非常に重視し、自身の人生において『人間関係』や他者への配慮が最も重要だと考え、さらには他者への配慮を一種の道徳的実践と見なしている人もいる] (楊暉 2007)。[問題が生じた際、まず集団の利益を考え、個人の利益は二の次にしている] (楊・于 2019)。[クライアントの自己表現や自己実現は、家庭やコミュニティなどに大きく制約されている] (尹 2019)。[クライアントの中には、経済的支援を受けた後、大部分の資金を家庭全体や子供の生活改善に充て、自分自身にはほとんど使わない人もいる] (尹 2020)。

ソーシャルワーク実践における文化的課題に関する基礎的研究

	<p>〈クライアントに対する周囲からの干渉と抑制〉</p> <p>[次世代に完全な従順を要求し、『良い子』であることや『言うことを聞くこと』を基準として期待している] (陳紅莉 2006). [家庭内で親が過度に子供の生活に介入し、子供の自立性が十分に保障されない] (陳金羽 2022). [家庭の影響や介入は当然と見なされている] (李明 2016). [女性のクライアントは家庭内での立場が低いいため、家族からの関心やケアに慣れておらず、自分自身が主体として扱われる経験がなかった] (王春霞 2006). [個人の発展や成長を軽視し、むしろ調和や統合を重視している] (張軍 2019).</p> <p>〈クライアントのワーカーに対する依存〉</p> <p>[クライアントは支援者を権威と見なす傾向があり、ワーカーに自分のことを診断し、助言を求めている。ワーカーとクライアントの関係は不平等である] (付 2008). [課題を抱えている子供たち (クライアント) は、ソーシャルワーカーを専門家や権威の代表と見なし、自分に代わって問題を解決してほしいと期待している。ワーカーが彼らに自分の意志で物事を決めるように促したところ、クライアントは混乱してしまった] (王藍琦 2023). [多くのクライアントはソーシャルワーカーを専門家と見なし、具体的で明確な包括的な解決策や方法を提供してくれることを期待している。たとえば自分自身に決断する能力があったとしても、自分の力に頼ることを拒む] (王雪燕 2018). [クライアントに対して完全に価値中立であったり、専門的な関係性に留まったりすることは、無責任だと見なされることがある。クライアントはワーカーからの導きや意見を求めている] (相 2017).</p> <p>〈支援を受ける際に見られるクライアントの受動的な姿勢〉</p> <p>[クライアントは、自分の家庭内の問題について話したがらない] (丁維 2013). [家庭内では『リーダー』が多くを話し、他の家族メンバーは主に聞き役に回ることが多い] (丁維 2013). [クライアントは、見知らぬ人の前で自分の感情を表現することに慣れていない] (馮 2015). [たとえ支援を受けても、受動的にサービスを受ける立場にすることが多く、積極的に参加したり意見を表明したりすることはほとんどない] (李永敏 2011). [支援において、クライアントは控えて内面的であり、自分のことについてあまり話したがらない] (魏 2020). [クライアントは、見知らぬ人に対して自分の自尊心や体面を傷つけることについて話すことに抵抗がある] (尹 2019). [多くのクライアントは、問題に直面すると『回避』や『無為』の姿勢をとることが多い] (尹 2020).</p> <p>〈『主体性の引き出し』に関する支援への意識と知識の欠如〉</p> <p>[ワーカーは中国人にとっての自立は何なのか分からない] (藍 2021). [ソーシャルワーカーは子供の頃から中国文化の信念を内面化しており、他人を気遣う心持ちや世話をすることが、他人の個性や自主性を尊重することよりも重要だと考えている] (楊暉 2007). [ソーシャルワーカーは『自立支援』の意識が弱く、クライアントを受動的な受け手として扱い、自主性を持つ個人として見るのではなく、支援活動を上から下への社会的救済と見なすことがある] (趙 2017).</p>
<p>【専門的な援助関係が保たれない】</p>	<p>〈ワーカーによるパターナリズム〉</p> <p>[ソーシャルワーカーは支援対象者の課題を解決する役割を果たすため、『専門家』としての権威を保つ必要がある] (丁雨 2022). [中国人は権威を崇拝しており、ソーシャルワーカーが親しみやすいと、かえって信頼できないと感じることがある] (李宜 2019). [支援の全過程において、ソーシャルワーカーはクライアントの意志を積極的に引き出さず、ワーカー自身の判断だけで支援を行った] (李永敏 2011). [支援が進むにつれて、ソーシャルワーカーは個人的な感情を仕事に持ち込みやすくなり、その結果、中立的な態度を保てなくなったり、クライアントの生活に過剰に介入することがある] (王雪穎 2021). [ソーシャルワーカーとクライアントの間には、容易に『指導する側』と『指導される側』という不平等な関係が生じる] (魏 2020). [ソーシャルワーカーは単に、権威を使っていたら子ども (クライアント) たちを抑え込んでいるだけである] (趙 2017).</p> <p>〈クライアントによるソーシャルワーカーへの畏敬と媚び〉</p> <p>[クライアントは、ソーシャルワーカーとの間に友人関係を築き、特別な配慮を受けることを望んでいる] (高 2012). [クライアントの家族がソーシャルワーカーを食事に招待し、支援サービスを受ける機会があれば、優先的に彼らを考慮してほしいと頼んだ] (孟 2021). [クライアントは、贈り物やお礼などの方法でソーシャルワーカーから特別な待遇やサービスを得られると考えた] (王雪燕 2018). [リソースの獲得において、クライアントはソーシャルワーカーに権威を発揮してもらい、手助けしてくれることを期待している] (王雪穎 2021). [人々は認知的に権威崇拝の考え方を変えるのが難しく、これが間接的にクライアントとソーシャルワーカーの間に不平等な関係をもたらしている。クライアントは権威に対する畏敬により、自己の本当の考えを表明することができなくなっている] (王雪穎 2021).</p>
	<p>〈『転移』及び『逆転移』の発生〉</p> <p>[クライアントはソーシャルワーカーからの支援を受けると、容易に好感を持ち、その好感が実際の行動に変わることがある。そして、ソーシャルワーカーもそれに応える可能性が高い] (曹 2020). [高齢のクライアントの支援において、クライアントはワーカーを自分の子供のように扱い、転移が生じることがよくある] (董華 2021). [ソーシャルワーカーは、クライアントを友人として扱うことがある] (高 2012). [丁寧な支援によって、クライアントのソーシャルワーカーへの好感が高まり、ワーカーに電話をかけて、おしゃべりをするが多くなった。これは、クライアントがソーシャルワーカーを頼りにしていることを示している] (孟 2021). [クライアントは見知らぬ人の助けを受け入れにくいいため、ソーシャルワーカーは共通の話題を見つけたり、積極的に寄り添ったり、話を聞いたりすることで、援助関係をスムーズに築くことができる。このようなアプローチにより、クライアントがワーカーとの関係を親しい友人関係であると暗黙に認識することもある] (唐 2022). [ソーシャルワーカーは関係の『度合い』を把握するのが難しく、転移や逆転移が生じることがある] (張明陽 2023). [クライアントはソーシャルワーカーからの優遇を望んでおり、これは実質的にクライアントのソーシャルワーカーへの依存心と転移を示している] (張明陽 2023). [支援の進むにつれ、クライアントはソーシャルワーカーとの間に仕事以外の関係、例えば友人関係を築こうとする] (張明陽 2023). [支援が進むにつれて、クライアントはソーシャルワーカーを友人や親しい人として扱うことがある] (張文字 2014). [クライアントは単にソーシャルワーカーを支援者として接するだけでなく、ワーカーのことを自分の良い友人や兄弟として扱い、食事に招待したり、自分の子供の勉強を見てもらうなどする] (朱 2019). [ソーシャルワーカーは自身の親子関係への欲求から逆転移を起し、クライアントを親しい人のように扱うことがある] (朱 2019).</p>

<p>〈贈答行為の発生〉</p>	<p>[援助関係の構築段階において、ワーカーが家庭訪問やコミュニティ活動を行う際に、クライアントにプレゼントを用意することがある] (曹 2020)。[クライアントが金銭や物品などの実質的な贈り物をするがよくある] (董寧 2021)。[ソーシャルワーカーがクライアントからの贈り物や食べ物を断ると、『冷たい』と見なされることがある] (董寧 2021)。[家庭訪問の際、クライアントがソーシャルワーカーに食べ物などを差し入れることが多い] (劉暢 2018)。[クライアントは感謝の意を示し、自宅の果物や野菜をワーカーに贈ることがある。ソーシャルワーカーが拒否すると、クライアントは自分が嫌われていると感じるため、ワーカーは受け取るしかなくなる] (孟 2021)。[ソーシャルワーカーは家庭訪問時に小さなプレゼントを渡すことで、クライアントとの良好な関係を築くのに役立つ] (盛 2016)。[中国の援助関係において、リソースの流れは一方通行ではなく、サービスを受けたクライアントに誘ったり、一緒に映画を観たりすることがある] (王雪穎 2021)。[クライアントはソーシャルワーカーに対して金銭などの実質的な利益を提供することがある] (張明陽 2023)。[ソーシャルワーカーは、クライアントからの食べ物などの贈り物を受け取ることが多く、またソーシャルワーカーも積極的にクライアントと共有することがある] (張明陽 2023)。[訪問の際、クライアントから果物、キャンディー、タバコなどを贈られることがあり、ワーカーは通常これを拒否しない。なぜなら、それはクライアントが信頼や熱意を表現しているからである] (張文字 2014)。[感謝として、クライアントがワーカーに贈り物をすることは珍しくなく、多くのワーカーもこれを拒否するのが難しい。特に贈り物の価値が低い場合、拒否するとクライアントに嫌な気持ちを与えることがある] (張紫琿 2018)。</p>
<p>〈私的・柔軟なやりとりが求められる〉</p>	<p>[ソーシャルワーカーが援助関係を築くためには、クライアントとの私的な関係の構築が優先されることがある] (曹 2020)。[ワーカーへの感謝の意を示すために、クライアントはワーカーを外食に誘ったり、一緒に映画を観たり、カラオケに行ったりすることが多い。礼儀として、ソーシャルワーカーはそのような招待の一部を受け入れることがある] (曹 2020)。[ワーカーとクライアントの間に親しい友人関係を築くことが、支援に役立つこともある] (儲・孫 2013)。[支援において、ソーシャルワーカーが同時に、教師、友人、親戚などの様々な役割を果たす必要がある] (杜 2020)。[プライベート関係が非常に重要で必要となる] (馮 2015)。[ワーカーは援助関係を築く際に、自身のことについて話したり、社会的なやり取りを通じてクライアントの信頼を得ることが必要である] (高 2012)。[ワーカーとクライアントの間には、専門的な援助関係と友人関係が交錯することがある] (胡 2019)。[援助関係の構築には、関係性に『情』の取り込みが必要である] (關 2016)。[ワーカーとクライアントの間に親密な私的関係が築かれていることは、支援をスムーズに進めるための重要な保障である] (李永敏 2011)。[ソーシャルワーカーはクライアントとのやり取りの中で、義理や人情、関係性の重要性を感じた。信頼関係の構築においては、クライアントを友人や親戚のように接し、一緒にショッピングに行ったりこともある] (劉暢 2018)。[契約上の関係だけでは、ワーカーはクライアントから『身内』として見なされず、信頼を得ることが難しい。ソーシャルワーカーは支援において、中国人の人間関係構築の方法を柔軟に活用する必要がある] (劉蕾 2017)。[情に欠けた形式的な対応は、援助関係を築くのが難しいだけでなく、関係性までを壊す可能性がある。そのため、援助関係の中に友情や家族愛が入り込むことが多い] (劉路 2023)。[支援初期において、クライアントからの抵抗に対して、ソーシャルワーカーはクライアントの農作業を手伝ったり、彼らと日常会話をするなどで関係の距離を縮めた。それにより、クライアントはワーカーを友人のように感じ、ワーカーを受け入れるようになった] (孟 2021)。[ソーシャルワーカーが家庭訪問中に食事の時間に遭遇すると、クライアントがワーカーに食事に留まるように誘うことがある。もしワーカーが誘いを拒否すれば、クライアントはワーカーが自分を軽視していると誤解することがある] (盛 2016)。[純粋な専門的援助関係は中国では通用せず、ソーシャルワーカーとクライアントの間には感情的な投入が必要である] (盛 2016)。[クライアントはワーカーのことを『おじさん』や『お母さん』と呼ぶことがある] (王春霞 2006)。[中国では、顔の見知らぬ人とのつながりを築くためには、義理人情的なやり取りが必要である] (王藍瑤 2023)。[ソーシャルワーカーは知り合いの人を仲介人としていたり、非公式的なやり取りを通じてクライアントと信頼関係を築くことがある] (王雪燕 2018)。[クライアントは、ソーシャルワーカーの生真面目で堅い対応を『冷たい』と感じ、人情味が欠けていると見なすことがある。そのため、実際の支援においては、援助関係に義理や人情の要素を取り入れることが求められる] (王雪穎 2021)。[実際の支援において、ソーシャルワーカーは『専門性』と『非専門性』の明確な区分を完全に理解することは難しく、『情』に浸透した倫理の下で『公』と『私』の境界があいまいになり、過度に専門性を強調すると、『人情味がない』と見なされることがある] (相華文 2017)。[ソーシャルワーカーとクライアントは、仕事以外の時間やプライベートな場面で会って遊んだり、話したりすることがある] (張明陽 2023)。[援助関係を築くためには、クライアントとの専門的でない私的な関係性の構築が優先されることがある] (張文字 2014)。[クライアントは、非勤務時間にソーシャルワーカーに連絡を取り、食事やショッピングに誘ったりすることがある] (張紫琿 2018)。</p>
<p>〈クライアントによる支援関係解消への抵抗〉</p>	<p>[クライアントを支援した後にすぐに援助関係を終了すると、クライアントは『ソーシャルワーカーは無愛想な人』といったネガティブな印象を抱くことがある] (董寧 2021)。[クライアントはワーカーに依存し、ワーカーと友人になったと感じているため、援助関係を終わらせたくないと思うことがある] (王雪燕 2018)。[たとえケースが終了しても、クライアントはワーカーとの関係を保ち、付き合いを続けたいと望むことがある] (張紫琿 2018)。[ソーシャルワーカーは早くケースを終了したいと考えていたが、クライアントとの別れ、関係性をうまく処理できていなかった] (趙 2017)。[中国のソーシャルワーク実践において、クライアントとの離別に対応する際には、中国人の倫理を考慮しなければならぬ。支援の終結は、クライアントにとって縁を切ることを意味する場合もあるため、ワーカーには慎重な対応が求められる] (朱 2019)。</p>

〈恥による介入の拒否〉〈公的サービス利用への抵抗〉〈助けを求めることへの抑制〉の四つのコード、計 36 個の記述内容から構成された。次に【『個』に焦点を当てる支援が実践されにくい】は〈クライアントが自身のことより周囲への配慮と感心が強い〉〈クライアントに対する周囲からの干渉と抑制〉〈クライアントのワーカーに対する

依存〉〈支援を受ける際に見られるクライアントの受動的な姿勢〉〈『主体性の引き出し』に関する支援への意識と知識の欠如〉の五つのコード、計 30 個の記述内容から構成された。最後に【専門的な援助関係が保たれにくい】は〈ソーシャルワーカーによるパターナリズム〉〈クライアントによるソーシャルワーカーへの畏敬と媚び〉〈『転

表2 中国のソーシャルワーク実践における課題の文化的背景（筆者作成）

【カテゴリー】	〈コード〉	〔記述内容〕
	〈関係性の中に生きること〉	<p>[中国の伝統的価値観は『義を重んじ、利を軽んじる』こと、さらには『義で利を代替する』ことを強調している（常2013）。[自分の考えを直接表現すると他人を傷つける可能性があるため、中国人は意見を表明する際に、含蓄で婉曲な態度をとることが多い]（丁維2013）。[特に農村では、関係志向の顔なじみの社会である]（杜2020）。[中国社会は、人間関係を基盤としている]（馮2015）。[中国では、個人間や個人と社会との関係が重視される]（何・楊2019）。[個人の価値、身分、生きる意義は主に「群己関係」を通じて表れている]（李明2016）。[私たちは『関係志向』である]（相2017）。[日常生活において、個々の人間は独立した存在ではなく、関係の中で存在している]（楊暉2007）。[儒教の「賦権」概念は、他者との関係の中で個人の価値と人生の意味を実現することを強調している。中国文化における個の主体性は、自他の相互依存と相互作用を強調している]（尹2020）。[農村社会は顔なじみの社会であり、人間関係を重視し、互いに助け合う傾向がある]（張・馬2019）。[中国は人情社会であり、人間関係]が非常に重要である]（張文字2014）。[中国社会では、関係性が文化の核心の一つである。中国社会のすべての関係は最終的に『類似族関係』に引き寄せられ、同化される。つまり、中国社会は『関係性本位』である]（朱2019）。</p>
【集団主義的な特性】	〈家族や共同体の束縛〉	<p>[中国の伝統文化は、『全体』を価値の主体として位置づけ、全体の利益を個人の利益よりも優先させ、個人が全体のために犠牲と奉仕を行うことを奨励している。また、個人の存在価値は全体から派生し、個人の位置づけは集団内の身分や地位に基づいて決る]（常2013）。[中国文化は内省、個人修養、忍耐、権威への服従、集団の調和を重んじている]（陳紅利2006）。[中国社会は家庭を基盤とする社会構造を持っている]（儲・孫2013）。[中国社会は共同体であり、集団利益のために個人の利益を犠牲にすることができる]（馮2015）。[家族を中心とする文化の中には、判断を下すのは個人だけでなく、むしろ家族全体によって決まる。]（馮2015）。[中国の伝統文化では、人は異なる組織に依存して生きることを考えている]（何・楊2019）。[個人の進歩は全体の成果である]（何・楊2019）。[中国の伝統文化と社会は、社会や集団、または家庭が個人にとって重要であることを過度に強調し、個人が独立した存在であることの重要性を軽視している]（黃2013）。[中国社会では、家族文化の影響を受け、個人は独立した存在としてではなく、家族の一員として見なされている。家庭は個人にとって最も重要な生活空間とされ、個人は家庭に強く依存している]（焦2016）。[儒教の倫理価値と社会的思考様式は集団主義を強調し、集団の利益を個人の利益よりも上位に置き、個人が集団に対して責任を負うことを求める一方で、倫理秩序を重視し、関係性の親疎遠近にこだわらず、隣人同士の助け合いを奨励している]（藍2021）。[中国の伝統文化では、個人は集団の一部として見なされ、最小の集団は『家』（家庭）である]（李明2016）。[家族からの独立は不可能である]（李宜2019）。[我が国では、集団主義の道德規範と倫理価値を重んじ、全体の利益を強調し、場合によっては個人の利益が犠牲にされることもあります]（劉璐2023）。[家族文化は中国の伝統文化の基盤である]（劉娜2012）。[伝統社会では、家庭と個人は従属関係にあり、家族メンバーが外部に助けを求めることは奨励されない]（任雪2015）。[西洋とは異なり、中国は家庭本位の社会構造を持っている]（史2011）。[中国の伝統文化は、個人の奉仕によって集団の発展を促進し、社会に対する個人の責任感と義務感を強調している]（史2011）。[儒教文化は、抑圧、忍耐、服従を強調し、個人は家庭、家長、君主に従うべきとしている]（王春霞2006）。[中国では集団主義が顕著であり、家庭やコミュニティの利益が優先され、個人の行為はよくは社会の期待や集団の圧力に影響される]（王藍瑤2023）。[『家庭本位』の文化の影響下で、中国社会は『個人・家庭・社会』の三層構造で成立し、社会の団結はまず家庭単位での団結が基盤となっている。儒教の影響により、家庭内には『集団主義』が見られ、これは家庭が成員を愛護し、成員が家庭に対して責任と義務を負うというものである。このような状況下では、家庭成員や社会成員としての個人の権利や価値は大きく弱められ、抑圧されてしまう]（王李源2021）。[集団主義の影響により、集団の努力で社会を活性化させることが強調されている]（楊暉2007）。[中国人の集団意識は個人意識よりも強く、集団に対する責任感がより強烈である]（楊・于2019）。[中国は集団主義、家長主義、関係志向の価値観を持っている]（尹2019）。[儒教は集団主義を主張し、個人を集団に依存させ、個人の利益は集団の利益に従うべきとする。個人の発展はより大きな集団、すなわち家庭や宗族の利益を目的とし、家族の利益のためには個人の利益を犠牲にすることさえある]（尹2020）。[我が国の伝統文化は、集団を個人に優先させることを強調している]（趙2017）。[伝統文化の理念では、家庭と個人は従属関係にあり、個人は家庭の一員として位置づけられている。現代社会に入り、社会構造の変遷とともに、家庭観念は弱まり、『集団』観念へと変わった。集団観念は、集団の名誉や責任を強調し、個人の行動を制約し縛る。その結果、集団の成員は自らの問題や困難、悪感情を内心に抑え込み、独りで耐えることに慣れてしまうことになる]（趙2017）。</p>
【権威主義的な特性】	〈権威・権力に対する服従・推崇〉	<p>[中国の家庭では、父親の権威が子どもたちのすべてに浸透している]（陳金羽2022）。[中国人の権威観念は比較的強い]（付2008）。[中国において、権威と社会的地位は人間関係や権力の配分に大きな影響を与えている]（王藍瑤2023）。[中国社会は関係志向の社会であり、人間関係は資源を象徴している。人々が関係を重視することは、本質的には資源の追求に他ない。権力は資源の象徴として、社会から当然のように推崇されており、人々が権力を追求することは自然に権威主義を形成した]（王雪穎2021）。[中国社会は『家父長制』に影響されている]（魏2020）。[家父長制では、個人の利益は家族全体の利益に代わなければならない]（魏2020）。</p>
【人間関係構造の特徴】	〈家族関係を基盤とすること〉	<p>[家庭は中国社会構造の基本単位であり、血縁関係は社会関係の基礎である]（常2013）。[中国文化はすべて家族観念に基づいて築かれており、家族観念があって初めて人道観念が生まれた]（李成2016）。[家族関係は、中国社会全体の社会関係の基礎である]（劉娜2012）。[中国人の人間関係は家族を中心に展開され、血縁関係はさまざまな社会関係を築くための中間的な役割を果たしている]（史2011）。[中国文化は、家庭生活を重視する儒教文化に基づいて構築されている]（張軍2019）。[家庭は社会の基本的な構成単位であり、また社会における個人の最も主要な活動領域でもある]（鄭2019）。</p>
	〈身分の序列による上下差〉	<p>[中国の伝統的な人間関係では、お互いの地位は平等ではなく、君臣、親子、夫婦、長幼の序列があり、尊卑や貴賤の違いも存在する]（常2013）。[特に家庭内では、老者の地位が重んじられている]（丁維2013）。[家庭秩序において重要な二つの原則は、男女の区別と長幼の序列であり、これに基づいて親子関係、師弟関係、夫婦関係などの一連の社会秩序体系や法制度が形成された。この体系の基礎の上に、階級と身分特権が生じ、上位者は命令を発し、下位者に支援と助けを与える。下位者は上位者に依存し、命令に従って行動する]（趙2017）。</p>

<p>〈親疎遠近のこだわり〉</p>	<p>[血縁の遠近に応じて、異なる人に異なる接し方をとることで、親疎の差が生じる] (常 2013). [強い信頼感は知人の中でのみ発生することが多い] (丁雨 2022). [権力もまた親疎によって区別される] (何・楊 2019). [特に農村で、社会関係の構築は倫理的な親疎関係に依存している] (劉暢 2018). [中国の人間関係は親疎にこだわる。それが生活のあらゆる面に影響を与える] (孟博 2021). [中国社会の人間関係は、非理性的な感情的な関係性であり、この関係は差序的な構造によってお互いの関係の遠近親疎が表れる] (王季源 2021). [中国人の『求一助』はこのように(人間関係ネットワークの)内から外へ展開する] (王季源 2021). [中国社会には普遍的な信頼は存在せず、信頼の程度は人間関係の親疎遠近に応じて変わる] (王雪燕 2018). [クライアントは親疎遠近を基準にソーシャルワーカーを比較的近い『サークル』(人間関係ネットワーク)に配置している] (張明陽 2023). [特に農村では、人間関係は親疎遠近にこだわる] (張文字 2014). [人間関係には親疎遠近の差があり、そこから『家の恥を外にさらさない』という考え方が生まれた] (張・譚 2012).</p>
<p>〈『内』と『外』の区別〉</p>	<p>[周りの人々を『内側』と『外側』に区別されている。『内側』には十分な信頼を置き、感情を注ぐ。『外側』には礼儀を重んじる] (常 2013). [中国家庭における人間関係は、血縁を基盤としている。血縁が近い人は『内』とみなされ、遠い人は『外』とみなされる。これが『内外の差』を生じさせる要因である。家庭内のことでは外側の人に触れてはならないプライベートの領域であるため、『家の恥を外にさらさない』という考え方が生まれた] (陳金羽 2022). [中国では家庭の事情は内部のメンバーには開かれているが、外の人には閉ざされている。中国文化には古くから“家の恥を外にさらさない”という観念がある] (丁維 2013). [中国特有の信頼構造は、家庭を中心に、親密度に応じて周囲の人々を『内側』と『外側』に自然に分けている] (黃 2011). [中国人は、身近な人を『ウチ』と『ソト』の2種類に分けている。『内側の人』には信頼を寄せるが、『外側の人』には警戒心を抱く。これにより、中国人の対人関係は理性ではなく感情が主導することになる] (李潤洲 2023). [親密な関係を築くには、お互いに相手のネットワークに溶け込むことが必要である] (孟博 2021). [関係性の親疎遠近によって、人々を『内側』と『外側』に分ける] (魏 2020). [家の中のことでは外部の人には関与させない。外部の人が関与することは、家庭のプライベートへの侵害と見なされる] (鄭 2019). [ワーカーがクライアントから差し出された水やタバコを積極的に受け入れることは、クライアントの『内側』に入るための手段の一つである] (朱 2019).</p>
<p>〈『恩返し』・『報い』という礼儀の重視〉</p>	<p>[中国人は『礼は往来を尊ぶ』(礼尚往来)を重んじ、行動の背景にある物事の相互性と因果関係を信じている。同時に、『施報観』には多くの『義理人情』の要素が含まれることが多い] (曹 2020). [中国の『礼』文化の中では、贈り物と『情』は相互に関連しています。贈り物とその受け取りの行為は、愛情豊かな関係性を示している。] (董寧 2021). [中国社会では人情が重視され、人情の貸し借りは計り知れず、返せないくらいが良いとされる] (高 2012). [中国は人情社会であり、『人情を借りる―返す―再び借りる』というモデルの中で、人々の関係が深まっていく] (關 2016). [資源のやり取り自体が人間関係の現れである。資源のやり取りを拒否したり、相手からの贈り物を受け取ってもお返ししないことは、道徳的に非難されるだけでなく、二人の関係も損なわれる可能性もある] (孟博 2021). [『報いの観念』は、中国の人情社会における対人関係の潜在的なルールである] (王雪穎 2021). [『滴水の恩には涌泉で報いる』という考え方は、中国人特有の義理人情、報いと対人関係の観念を表している] (唐 2022). [中国人は報いを重視する] (王春霞 2006). [顔見知りの中国社会では地域の礼儀が重要視される] (張・馬 2019). [中国では古くから『礼は往来を尊ぶ』(礼尚往来)を重んじ、恩を知り報いるなどの礼儀が求められている。義理や人情に従うことは、関係を維持するための基本的な要求である。クライアントは、贈り物などを通じて、ソーシャルワーカーが心を込めて支援を提供しているかどうかを確認している。また、ワーカーへの感謝の気持ちを表し、報いたいと考えている。] (張明陽 2023). [日常の礼儀は、お互いの関係性を維持している。そのため、『滴水の恩には涌泉で報いる』という考え方がある] (朱 2019).</p>
<p>【倫理道德の特徴】</p> <p>〈『契約』より『義理人情』の重視〉</p>	<p>[中国人の価値観は『情理』を強く重視しています。対人関係は主に血縁に基づく感情的な関係性であり、理性に基づく契約関係ではない] (常 2013). [中国社会は本質的には倫理本位の社会であり、人間関係は日常のやり取りの中で自然に形成されることが多く、職業的な関係や制度的なものは媒介に過ぎない] (董寧 2021). [西洋人は普遍的な道德法則を守るが、中国社会では儒家思想が道德体系の主体である。儒家思想の中で『義』は仁道に基づく仁義や情義を指す] (馮 2015). [我が国の社会は顔見知りの社会であり、人情に厚い社会でもある。専門的な援助関係と私的な関係は、必然的に結びつくものである] (胡 2019). [中国で対人関係は『人情とメンツ』が大事にされ、目的重視の関係性は通用しない] (關 2016). [西洋の理性主義的な制度信頼とは異なり、中国の伝統倫理は人間関係を重視し、関係性の親疎遠近が強調される。そのため、信頼を得るためにはまず親密な関係を築く必要がある] (李永敏 2011). [中国は人情社会である] (劉暢 2018). [中国社会の本質は『人間関係』であり、情を重視し、理性を軽視する] (劉雷 2017). [中国は人情社会であり、人との関わりには感情が注入されることが求められ、無感情な制度や規範に頼ることは少ない] (劉璐 2023). [義理人情は対人関係に欠かせないものである] (孟博 2021). [西洋人の信頼のメカニズムとは異なり、中国人は自分と血縁関係がある人をより信頼しやすい] (盛 2016). [中国の人情文化の核心は『人間関係』であり、人々の間のつながりや関係性を強調している。一方で、西洋の法理文化は合法性や公平正義を重視する] (王藍瑤 2023). [中国社会の倫理観は人間関係の特徴に基づいている。契約を基にした専門的な援助関係は制度と理性を重視するが、中国の倫理至上主義の影響で、人々は常に理性よりも人情を重視している] (王雪穎 2021). [中国の伝統社会における人間関係は、『人情』や『人倫』、さらには『人縁』などの要素が含まれ、特に公私の境界が曖昧であることが特徴である] (相 2017). [我が国の文化において、人々の関係性は『人情関係』と呼ばれ、社会環境も『人情社会』とされている] (張紫珺 2018). [中国では人情や関係性が重視されている。人情は報いを強調し、関係性は親疎遠近を重視する] (趙 2017).</p>
<p>〈メンツの維持に対する配慮〉</p>	<p>[中国人は人間関係の中で非常にメンツを大切にしている] (常 2013). [メンツの問題は、中国では体面と関係を維持するための基本的な必要性と見なされており、『家の恥を外に漏らさない』という考えが重んじられている] (李明 2016). [中国人は独特なメンツ観を持っており、それは他者からの承認を得ることや特定の社交圏に迎合することに社会行動として表れている] (李潤洲 2023). [父家長制の影響で、高齢のクライアントは家長の権威を重視し、強いメンツ意識を持っているため、ソーシャルワーカーに本当の感情やニーズを表明しない傾向がある] (朱 2019).</p>

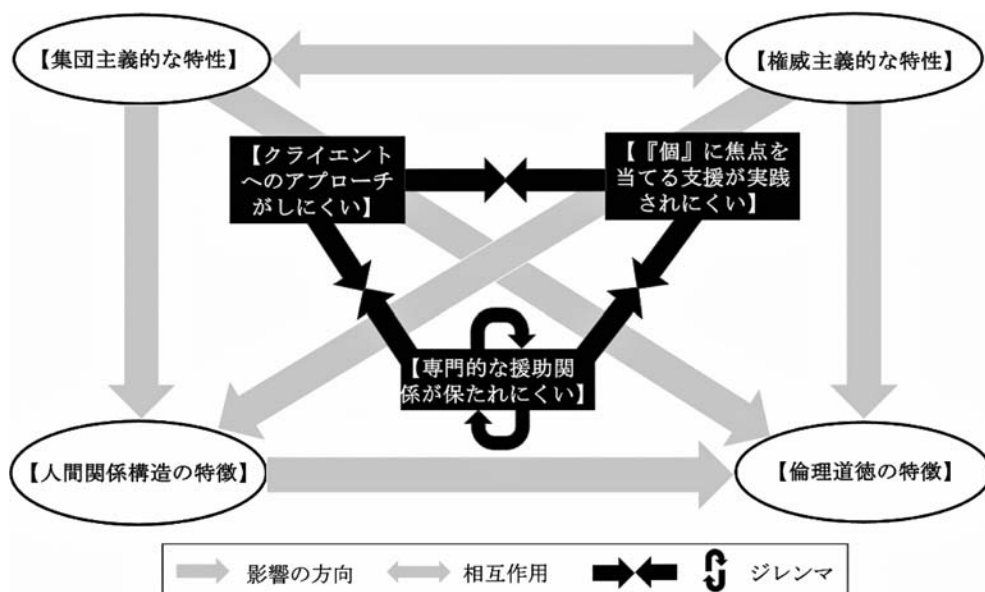


図1 中国のソーシャルワーク実践における文化的課題の全体構造（筆者作成）

移』及び『逆転移』の発生）〈贈答行為の発生〉〈私的・柔軟なやりとりが求められる〉〈クライアントによる支援関係解消への抵抗〉の六つのコード、計61個の記述内容から構成された。

2. 中国のソーシャルワーク実践における課題の文化的背景

課題の文化的背景の整理と考察は、ソーシャルワークの実践現場ではどのような中国の文化的要素がソーシャルワークの展開を阻害しているのかが明確にすることができ、文化的課題の解決、およびソーシャルワークの中国における定着化の促進に役に立つと考える。

抽出された54件の文献の中、「中国のソーシャルワーク実践における課題の文化的背景」に関する記述内容を断片化した結果、計104の記述内容を得た。次に、各記述内容が類似したものと同士をグループ化すると、【集団主義的な特性】【権威主義的な特性】【人間関係構造の特徴】【倫理道德の特徴】の四つのカテゴリーにまとめられた（表2）。

具体的にそれぞれの課題の文化的背景をみると、まず【集団主義的な特性】は〈関係性の中に

生きること〉〈家族や共同体の束縛〉の二つのコード、計38個の記述内容から構成された。次に【権威主義的な特性】は〈権威・権力に対する服従・推崇〉の一つのコード、計6個の記述内容から構成された。また【人間関係構造の特徴】は〈家族関係を基盤とすること〉〈身分の序列による上下差〉〈親疎遠近のこだわり〉〈『内』と『外』の区別〉の四つのコード、計29個の記述内容から構成された。最後に【倫理道德の特徴】は〈『恩返し』・『報い』という礼儀の重視〉〈『契約』より『義理人情』の重視〉〈メンツの維持に対する配慮〉の三つのコード、計31個の記述内容から構成された。

V. 考察

本節では、整理された中国のソーシャルワーク実践における課題、及びその文化的背景を包括的に見ることにより、中国人の日常生活の営みの中で現れている思考方式や行動様式が、どのようにソーシャルワーク実践の課題を影響していくかについて考察し、現場を取り組む状況の全体図を明らかにした（図1）。

1. 中国のソーシャルワーク実践における文化的課題の一体性

抽出された【クライアントへのアプローチがしにくい】【『個』に焦点を当てる支援が実践されにくい】【専門的な援助関係が保たれにくい】の三つの課題に注目すると、一見課題間の相互関連性が弱いように見えるが、これらの課題をその背景にある文化的要素と包括的に捉えると、課題の間に強い関連性があることが見えてくる。

ここで、まず課題の文化的背景における各文化的要素間の関連性を考察したい。研究結果によると、中国のソーシャルワーク実践における課題の文化的背景には、【集団主義的な特性】【権威主義的な特性】【人間関係構造の特徴】【倫理道德の特徴】の四つの要素がある。そして、それらの要素を詳しく見ると、中国人の【人間関係構造の特徴】は、【集団主義的な特性】と【権威主義的な特性】の両方の影響を同時に受けていると考えられる。つまり、中国人は〈関係性の中に生き〉、さらに〈家族や共同体の束縛〉を受けることで、常に周囲に配慮し、他者との「和」を自分の利益や考えよりも優先しているのである。しかし集団主義的な特性だけでは、中国人の人間関係構造を形成することはできないと考えられる。集団主義であっても、集団内の各個人の意見や考えを聞き、一人ひとりを平等に扱うケースもある。そこで、中国人は〈権威・権力に対する服従・推崇〉という権威主義的な側面も同時にもっており、集団内では権力の多少に応じて人を区分し、権力のない人や団体は権力のある人や団体に服従しなければならないのである。そして人間関係を重視する社会では、人が持つ人間関係ネットワークそのものが資源であり、権力・権威の象徴となる。さらに、権力・権威のある人は他者を集め、自分を中心とする団体を作ることができる。そのため、【集団主義的な特性】と【権威主義的な特性】は相互作用し、相互に強化し合う関係にあると言える。

このような影響のもとで、中国人の【人間関係構造の特徴】、すなわち〈家族関係を基盤とすること〉、〈身分の序列による上下差〉、〈親疎遠近へ

のこだわり〉、〈『内』と『外』の区別〉が形成されている。要するに、家族は中国社会の最小の団体であり、社会関係は家族関係の延長線上にあり、家族関係が他の社会関係よりも優先される傾向がある。また、権威主義により、人々の関係性は身分の違いによって人々の関係性に不平等が生じやすい。さらに、関係性が社会資源の一つと見なされることで、ある意味で関係性の親疎遠近が資源の量を反映することになり、その結果として、関係性の親疎にこだわるのが理解できる。最後に、集団主義と権威主義による団体や共同体の強い結束性は、集団の閉鎖性を促し、人々の関係性における「内」と「外」の区別を生み出しているのではないかと考えられる。

一方で、中国人の【人間関係構造の特徴】、【集団主義的な特性】と【権威主義的な特性】は【倫理道德の特徴】を形成している。具体的に言うと、人間関係を重視する中国社会には、普遍的なルールや決まりはなく、その代わりに義理人情が重要な位置を占めており、まさに〈『契約』より『義理人情』の重視〉がなされている。つまり、相手との関係性によって、その人への対応や振る舞いが相応に変わるのである。そして義理人情を深めるためには、〈『恩返し』・『報い』という礼儀の重視〉がなされており、さらにお互いの、特に権威のある人の〈メンツの維持に対する配慮〉も行われている。

以上のことを踏まえ、中国のソーシャルワーク実践における課題の文化的背景となる【集団主義的な特性】【権威主義的な特性】【人間関係構造の特徴】【倫理道德の特徴】の四つの要素が互いに関連していることを説明した。これにより、それらの要素の絡みによって生じる課題の間にも関連性が存在することが推測できる。それに関する考察は次の節で述べたい。したがって、中国のソーシャルワーク実践における文化的課題は、一つ一つを個別に見るのではなく、包括的に捉えることにより課題の全体構造を把握する必要があると考えられる。

2. 中国のソーシャルワーク実践における文化的課題のジレンマ

前節では、課題の文化的要素間の関連性を述べ、課題全体を包括的に捉えるべきであることを説明した。こうした視点に基づき、本節は課題間の関係性を注目し、文化的課題におけるジレンマについて考察したい。

(1) 【クライアントへのアプローチがしにくい】と【専門的な援助関係が保たれにくい】のジレンマ

【クライアントへのアプローチがしにくい】の категорияにおいては、〈ワーカーへの不信・不安による訪問・介入の拒否〉という課題が存在する。要するに、クライアントは何らかの課題を抱えている際、家族や友人、または顔見知りの人に助けを求める傾向が強く、顔見知りでないワーカーに対する不信や不安から、助けを求めることや支援を受けることに抵抗がある。その背景には、【集団主義的な特性】、【人間関係構造の特徴】および【倫理道德の特徴】が直接的に関連していると考えられる。

まず、【集団主義的な特性】の категорияにおいて、中国人は〈関係性の中に生きる〉という特徴を持ち、中国社会は人間関係を最も重視する顔見知りの社会である。知り合いに対する慣れ親しさから信頼感が生まれ、安心して助けを求めることができる。さらに、〈家族・共同体の束縛〉を受けると、特に家族・共同体内のメンバーに対する信頼や依存が強くなっていると考えられる。この影響を受け、中国人のクライアントは〈親疎遠近のこだわり〉があり、最も親しい関係の人に助けを求める傾向がある。また、人間関係を保つためには、相手からの助けを受けた後に〈『恩返し』・『報い』という礼儀〉を守らなければならない。この場合、慣れ親しんだ相手であれば、クライアントはどのようにお返しすればよいかをよく理解しているため、安心して助けを受けることができるのである。

さらに、中国人の人間関係には〈『内』と『外』の区別〉があり、人との付き合いの中で〈メンツの維持に対する配慮〉も必要である。そのため、

クライアントが課題を抱えている弱い自分を外の人に晒すことは、メンツを傷つけることにもなる。これらの理由から、クライアントは顔見知りでないワーカーの支援を受けたがらず、ワーカーはどのようにアプローチすればよいか悩むことになる。

こうした状況に対応するために、クライアントの「内側の人」になることで問題が解決できるのではないかと多くのワーカーが考える。つまり、支援対象者を家族や友人のように接し、彼らとの関係性を深めることで、クライアントがワーカーを信頼し、安心して支援を受け入れるようになるという対策である。しかし支援が進むにつれ、クライアントはワーカーとの関係を単なる専門的な援助関係としてではなく捉え始め、両者の間には〈私的・柔軟なやりとりが求められる〉ようになる。さらには〈贈答行為の発生〉や〈『転移』と『逆転移』〉が生じる場合もある。

要するに、中国では困りごとを抱えたときに親しい人に助けを求める傾向があるため、見ず知らずのソーシャルワーカーに関与を抵抗する一方、一旦ワーカーとの援助関係を結ぶと、その関係が専門的な関係性を超えてしまうというジレンマが生じるのである。

(2) 【『個』に焦点を当てる支援が実践されにくい】と【専門的な援助関係が保たれにくい】のジレンマ

【『個』に焦点を当てる支援が実践されにくい】の categoriaには、〈支援を受ける際に見られるクライアントの受動的な姿勢〉という課題がある。この課題については、[クライアントは見知らぬ人の前で自分の感情を表現することに慣れていない] (馮 2015: 8)、または [クライアントは見知らぬ人に対して自分の自尊心や体面を傷つけることについて話すことに抵抗がある] (尹 2019: 111) ということが指摘されている。つまり、クライアントは見知らぬワーカーに対する信頼が不足しており、心を開くことや弱さを見せることに恥を感じ、抵抗感を抱いていることである。その背景には、〈関係性の中に生きること〉という【集団主義的な特性】、〈親疎遠近のこ

だわり)〈『内』と『外』の区別〉という【人間関係構造の特徴】、さらに〈メンツの維持に対する配慮〉という【倫理道德の特徴】が直接影響を与えていると考えられる。要するに、クライアントは常に周囲との関係性を考慮しながら行動を決めているということである。具体的に言えば、顔見知りではない人との関係性は比較的疎遠であり、こうした「外側の人」に対しては信頼感が欠如しているため、自らの言動を慎み、自分のメンツを守る事が求められている。そのため、ソーシャルワーカーはクライアントの本音や本当のニーズを把握することが難しくなり、支援に支障をきたしていることに悩んでいる。

これに対応するために、ワーカーは支援の際にクライアントと〈私的・柔軟なやりとり〉を行い、時にはクライアントに贈り物を渡して信頼を得ることで、支援をよりスムーズに進める工夫をしている。しかし、ソーシャルワーカーがクライアントのニーズを引き出し、自己開示を促すために親しい関係を築こうとする行為が、結果的に専門的な援助関係を壊すことになるというジレンマが生じていると考えられる。

(3)【『個』に焦点を当てる支援が実践されにくい】と【クライアントへのアプローチがしにくい】間のジレンマ

【『個』に焦点を当てる支援が実践されにくい】カテゴリーには、〈クライアントのワーカーに対する依存〉という課題がある。[課題を抱えている子供たち(クライアント)は、ソーシャルワーカーを専門家や権威の代表と見なし、自分に代わって問題を解決してほしいと期待している](王藍瑤 2023: 23)。その背景には、〈権威・権力に対する服従・推崇〉という【権威主義的な特性】と〈身分の序列による上下差〉という【人間関係構造の特徴】が直接的に影響を与えていると考えられる。つまり、社会資源を持ち、さらに支援の専門家であるソーシャルワーカーが、クライアントにとっては権威・権力の代表者として映っており、クライアントはワーカーの前で「己」を消し、彼らに服従しつつ、助け・救いを期待しているのである。

ところが、「個」に焦点を当てるソーシャルワーク支援では、クライアントの主体性を引き出すことが求められる。したがって、ソーシャルワーカーはクライアントの前で権威を下げ、身を低くすることで、クライアントの主体性を引き出し、自立を促す支援に工夫を凝らしている。しかし、このような対応を取ることで、クライアントはソーシャルワーカーを権力のない人物と見なし、結果として〈ワーカーへの不信・不安による訪問・支援の拒否〉という【クライアントへのアプローチがしにくい】課題が生じる可能性があると考えられる。これが〈クライアントのワーカーに対する依存〉と〈ワーカーへの不信・不安による訪問・支援の拒否〉の間のジレンマであると言える。

(4)【専門的な援助関係が保たれにくい】課題内のジレンマ

本課題においては、〈ワーカーによるパターナリズム〉と〈私的・柔軟なやりとりが求められる〉という悩みがある。まず、〈ワーカーによるパターナリズム〉については、その背景には〈権威・権力に対する服従・推崇〉という【権威主義的な特性】、〈身分の序列による上下差〉という【人間関係構造の特徴】、そして〈『契約』より『義理人情』〉という【倫理道德の特徴】が直接的に影響を与えていると考えられる。つまり、ソーシャルワーカー自身もクライアントの前では「専門家」という強い立場にいることに気づかず、権威や権力を使い、自分が正しいと思うことを押し付け、クライアントの意思決定に強く干渉する傾向があるのである。また、義理人情を重視する文化の中で、ワーカーは契約や規則よりも、クライアントを助けたいという気持ちや熱意を優先され、クライアントの生活に多少干渉しても問題ないと考えることがある。しかし、こうした行動により、ワーカーによるパターナリズムが生じやすくなり、非対称的な関係性が形成される可能性があると考えられる。

これを防ぐためには、ワーカーが自分の意見をなるべく抑え、選択権をクライアントに委ねるよう工夫することが求められる。しかし、〈私的・

柔軟なやりとりが求められる）クライアントから見ると、このようなワーカーは冷たく、人情味がないと感じられ、援助関係の維持が難しくなる可能性がある。

3. 文化的課題の捉える視点と今後の課題

前節において、課題とその文化的背景を包括的に分析することで、文化的課題における四つのジレンマを考察した。本節ではこれらのジレンマを踏まえ、ソーシャルワークの中国における定着に向け、ソーシャルワーク実践における文化的課題をどのように捉えるかを考察し、さらに今後の課題について検討したい。

分析の結果、文化の差異によって中国のソーシャルワーク実践現場では三つの課題が存在することがわかった。また、課題間の関係性を考察することで、これらの課題の間にはジレンマや葛藤が生じていることが確認された。ソーシャルワークの現場で葛藤やジレンマが存在すること自体は悪いことではなく、それはソーシャルワーカーが常に目の前のクライアントを専門的かつ効果的に支えようと努力した結果であると考えられる。尾崎(2009: 11)は「現場は葛藤や矛盾が存在することが本来の姿である。仮に、葛藤をすべて排除した現場や矛盾を一切許さない現場があるとすれば、それは偏った信念によって支配された場か、施設側の都合だけが優先された場に過ぎない」と述べた。そのため、文化的課題の解消が、ソーシャルワークの専門性を放棄するか、あるいは中国の文化的環境を無視することを意味するならば、それは本来の目的ではない。現場のソーシャルワーカーは、こうした文化的な葛藤と共生しながら支援を行うことを意識する必要があると考える。つまり、クライアントの文化的背景を尊重しながら、ソーシャルワークの専門性を発揮することを常に模索していかなければならないのである。そして、このような葛藤に直面するソーシャルワーカーたちをどのように支えるかということ、ワーカー自身が困難を乗り越える力をどのように身につけていくかが、今後の検討すべき課題と言える。ここでは、実践現場で生じている文化

的課題の捉え方についてさらに考察を深めていきたい。

先述したように、ソーシャルワーカーがクライアントに対して専門的かつ馴染みのある支援を提供するためには、中国の文化的背景とソーシャルワークの専門性の両方を考慮することが求められる。ソーシャルワークの目的は、クライアントが主体的に生活を営むことを支援することである。「主体的な営み」とは、クライアントの文化的特性が尊重され、その人らしい生き方ができることを意味する。そのため、文化的背景の配慮とソーシャルワークの専門性の維持はお互いに矛盾するものではなく、両者は共にクライアントがより豊かな生活を送らせるために重要な要素である。

その両者の関係性について、空閑(2014: 6)はソーシャルワークの文化的課題を考える際に、「国際的に普遍性を持つソーシャルワークの原理と、国や地域ごとに独自性を持ったその適用方法を混同してはならない」と述べた。つまり、ソーシャルワークの理念や価値は国際的に普遍的であり、その普遍性を議論の基盤とした上で、各国の独自の文化的特性に適合させる必要があるということである。また、2014年には新たな「グローバル定義」が採択され、「この定義の特徴は、それまで西洋の思想や文化に基づいた定義を普遍的なものとして位置づけ、他の文化の特性を無視してきたことへの反省がある」(狭間 2021: 15)とされている。無論、「人間の存在価値および主体性の尊重、人と環境および人々互いの関係性の尊重」というソーシャルワークの中核は変えることはできない(日本ソーシャルワーカー連盟 2014)。つまり、国際的な視点から見ても、ソーシャルワークの理念や価値に基づき、地域の文化的特性に適合した支援のあり方を模索することが重要である。

同様に、中国におけるソーシャルワークの展開も、国際的・普遍的な視点に立ち、ソーシャルワークの中核を基盤としつつ、自国の実情に照らし合わせた支援方法を検討することが今後の課題となると考えられる。この意味で、中国におけるソーシャルワークの定着化は、「グローバル定義」

の定着化でもあると言える。なぜなら自国の文化を基盤にすることが、中国に古くからある慈善活動のようなものに近づき、結果的に支援する側とされる側の双方に不利益をもたらす可能性があると考えられるからである。また、学問としての継続的な発展を図るためには、国際レベルでの議論や検討、弁論が欠かせないのではないかと考える。

VI. 本研究の限界と今後の課題

今回、中国のソーシャルワーク実践における文化的課題を明らかにしたが、これらの課題は中国に固有のものではないと考えられる。例えば空閑(2005)は、実際に日本人も他者を配慮する傾向が強いため、ソーシャルワークの定着において中国と同様の課題に直面していると指摘した。また家族中心の文化を持つ韓国でも、クライアントは西洋のように自分の人生だけではなく、親や周囲への負担を考慮し、自己決定に悩むことがある(斎藤・戸塚2017)。そのため、中国におけるソーシャルワークの定着には、中国の現場で生じている課題や葛藤を検討することが重要であると同時に、それがあらゆる国で生じるソーシャルワークの理論と実践のギャップという、より普遍的な視点を持つことも求められていると考えられる。この意味では、本研究は中国を一つの事例として位置付けられ、国際的なソーシャルワークの定着に関する検討にも貢献できると期待される。

また中国の改革開放に伴い、計画経済体制から市場経済体制へと移行し、近年では市場経済のさらなる発展が進む中で、社会構造などの変化は中国人の伝統的な考え方や行動様式に大きな影響を与えただけでなく、地域間や社会階層間の格差も引き起こしている。これらにことから、今後中国のソーシャルワークがどのように対応していくかが大きな課題となっていると言えよう。

注

- 1) 本稿において引用された中国の文献内容は、全て筆者が原本に基づき日本語訳にしたものである。

- 2) 文献リストの順番は著者名をアルファベット順にした。中国文献は、著者名の中国語発音を基準に並べた。
- 3) 事例を用いた文献およびインタビューに基づいた文献では、事例中に登場する人物及び調査対象者の個人情報や固有名詞を匿名化し、特定されないように配慮した。

参考文献

- 蔡舒 (1993) 「中国社会工作專業的重建以及需待解決的几个重要問題」『中山大學學報論叢』1993(Z1), 107-113.
- 曹耕 (2020) 「本土社工对双重关系的認知模式与应对策略——基于7位被訪者的研究」内蒙古大學民族學与社会學研究科 2020年度修士論文.
- 常立 (2013) 「中国傳統文化与社会工作價值觀本土化的契合及倫理困境」西北大學 2013年度修士論文.
- 陳紅莉 (2006) 「社会工作本土化：文化視角下的家庭治療」『南京人口管理幹部學院學報』2006(01), 63-66, 74.
- 陳金羽 (2022) 「結構式家庭治療与我国傳統家文化的契合性研究」青島科技大學社会工作研究科 2022年度修士論文.
- 儲冬冬・孫从遠 (2013) 「文化共生視域下的社会工作本土化」『長江論壇』, 2013(02), 69-72.
- 大木秀一 (2013) 『看護研究・看護実践の質を高める文献レビューのきほん』医歯薬出版.
- 丁維 (2013) 「進城務工人員子女家庭教育的社工介入研究」吉林大學哲学社会科学學研究科 2013年度修士論文.
- 丁雨 (2022) 「社会工作服務中專業关系建立研究——以“武漢流動青年就業支持項目”為例」華中科技大学社会工作研究科 2022年度修士論文.
- 董靜 (2020) 「“礼”文化情境下老年社会工作的倫理困境及应对」『江蘇工程職業技術學院學報』2020, 20(01), 71-74.
- 董寧 (2021) 「農村社会工作服務中的多重关系——以Y机构實踐為例」中国社会科学院大學(研究生院)社会學院 2020年度修士論文.
- 杜平 (2020) 「專業关系的情境化建构：基于“讓我們做朋友—河北”的个案分析」『社会建設』2020, 7(06), 42-53.
- 馮浩 (2015) 「案主自決原則在華人社会中的實踐困境」『華東理工大学學報(社會科學版)』2015, 30(04), 1-

- 11.
- 付再学 (2008) 「文化対話と社会工作本土化」『社会工作下半月(理論)』, 2008(01), 15-18.
- 高培英 (2012) 「社会工作專業關係的本土化探討」首都經濟貿易大学社会工作学研究所 2012 年度修士論文.
- 狹間香代子 (2021) 「IFSW グローバル定義と日本のソーシャルワークの展開」『人間健康学研究: Journal for the study of health and well-being』14, 15-23.
- 何雪松・楊超 (2019) 「中国社会工作的本土化: 政治, 文化与实践」『濟南大学学报(社会科学版)』2019, 29(01), 24-29.
- 胡瓊 (2019) 「社会工作本土化視角下双重关系困境的探討」『傳播力研究』(15) 2019, 3(15), 249.
- 黃耀明 (2011) 「試論中国社会工作本土化的“家文化”情結」『北京科技大学学报(社会科学版)』2011, 27(01), 69-72.
- 黃耀明 (2013) 「論中国社会工作本土化与專業文化建構」『重慶工商大学学报(社会科学版)』2013, 30(04), 59-63.
- 焦玉良 (2016) 「社会工作価値的現代取向与本土策略——基于烟台市“独居老人安全网项目」『山東社会科学』2016(11), 80-87.
- 關亞輝 (2016) 「企業社会工作專業關係建立的本土化研究」蘭州大学社会学研究科 2016 年度修士論文.
- 空閑浩人 (2005) 「日本のソーシャルワークにおける文化的基盤: 『世間』に生きる日本の『個人』への視点」『評論・社会科学』77, 43-63.
- 空閑浩人 (2012) 『ソーシャルワーカー論—「かかわり続ける専門職」のアイデンティティ—』ミネルヴァ書房.
- 空閑浩人 (2014) 『ソーシャルワークにおける「生活場モデル」の構築—日本人の生活・文化に根ざした社会福祉援助—』ミネルヴァ書房.
- 藍財广 (2021) 「助人自助抑或互助助人: 中国社会工作助人理念的本土化初探」西南大学社会工作研究科 2021 年度修士論文.
- 李成 (2016) 「家文化与老年社会工作本土化初探」『西部皮革』2016, 38(10), 129, 141.
- 李明 (2016) 「嵌入式發展: 文化兼容与社会工作本土化的路径選擇」『社科縱橫』2016, 31(03), 83-85.
- 李潤洲 (2023) 「面子文化視角下社工介入家庭領域服務路径探索——基于 S 市家庭教育指導服務項目的研究」瀋陽師範大学社会工作学研究所 2023 年度修士論文.
- 李賀・馬文靜 (2023) 「汲取, 融通, 嵌入——中国社会工作倫理本土化路径選擇」『太原城市職業技術学院学报』12, 47-49.
- 李宣 (2019) 「个人主義倫理價值觀的本土应用研究——基于机构养老的案例分析」西北農林科技大学社会工作研究科修士論文.
- 李永敏 (2011) 「我国農村社会工作的本土化路径研究——基于江西省万載縣的实证分析」復旦大學社会学研究科 2011 年度修士論文.
- 劉暢 (2018) 「社会工作倫理困境辨識与抉擇研究——以廣州市為例」華南農业大学公共管理学院 2018 年度論文.
- 劉蕾 (2017) 「“关系本位”視野下的社会工作实践研究——以上海市 Z 社工机构為例」華東政法大学社会工作研究科 2017 年度修士論文.
- 劉璐 (2023) 「机构养老实践中的社会工作倫理困境研究——以湖州市 X 养老机构社工实践為例」華東師範大学社会工作学研究所 2023 年度修士論文.
- 劉娜娜 (2012) 「中西文化差異下对社会工作本土化的几点反思」『廣州廣播電視大学学报』2012, 12(03), 82-84.
- 孟博 (2021) 「人情与社会工作倫理本土化研究——以 S 縣未成年人保護項目為例」廣西科技大学社会工作研究科 2021 年度修士論文.
- 日本ソーシャルワーカー連盟 (2014) 「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」(https://jfsw.org/definition/global_definition/2024.3.29)
- 尾崎新 (2009) 『「現場」のちから—社会福祉実践における現場とは何か』誠信書房.
- 彭秀良 (2020) 『中国社会工作名家小傳』中国社会出版社.
- 任文启 (2016) 「利他使群: 社会工作本質的中国表」『社会建設』3(01), 52-59.
- 任雪 (2015) 「中国伝統“家”文化对社会工作價值觀本土化的影響」『文化學刊』2015(07), 232-233.
- 齊藤順子・戸塚法子 (2017) 「東アジア型ソーシャルワークモデル構築のための検討—韓国のソーシャルワーク実践と文化的特性についての考察(その1)—」『淑徳大学社会福祉研究所総合福祉研究』21, 231-239.
- 盛翠力 (2016) 「本土化視闕下社会工作專業關係建立路径分析——以“城市流動兒童家訪社会工作示範項目”為例——」中国青年政治学院社会工作学研究所 2016 年度修士論文.
- 史煥翔 (2011) 「中国伝統孝文化对社会工作本土化的影

- 響』『東北農業大学学報(社会科学版)』2011, 9(05), 78-81.
- 白澤政和・岩間伸之(2011)「はしがき」白澤政和・岩間伸之編著『リーディングス日本の社会福祉第4巻 ソーシャルワークとはなにか』日本図書センター, iii-IV.
- 唐亦奇(2022)「社会工作学生医院実習中の倫理困境：一个質性研究」華東理工大学社会工作学研究所2023年度修士論文.
- 王春霞(2006)「从伝統文化視角考察中国社会工作的“本土化”」『徐州師範大学学报』2006(03), 105-107.
- 王藍瑤(2023)「文化模式理論視角下困境儿童社会工作本土化困境与路径研究——以X机构的實踐為例」吉林大学哲学社会科学学院 2023年度修士論文.
- 王李源(2021)「求与助：社会工作專業服務實踐关系的本土化建構研究——基于X社区老年人的口述史分析」重慶大学社会工作研究科2021年度修士論文.
- 王思斌(1995)「中国社会工作的經驗与發展」『中国社会科学』1995(02), 97-106.
- 王思斌(2014)『社会工作概論(第三版)』北京高等教育出版社.
- 王雪燕(2018)「基於社会信任視角的社会工作本土化研究」重慶大学公共管理学院 2018年度修士論文.
- 王雪穎(2021)「人情社会下社会工作專業关系的倫理困境研究」華中科技大学社会工作研究科 2021年度修士論文.
- 魏玲玲(2020)「家文化与社会工作論理本土化建構」『武漢職業技術学院学报』2020, 19(01), 110-113.
- 相華文(2017)「社会工作倫理困境研究」中国礦業大学馬克思主義学院2017年度修士論文.
- 楊暉(2007)「社会工作本土化過程中的文化關注」『社会工作下半年(理論)』, 2007(10), 4-6.
- 楊梓藝・于首濤(2019)「社会工作本土化的困境反思——基於中西文化比較視角」『文化學刊』2019(09), 56-59.
- 尹新瑞(2019)「社会工作敘事治療的研究現狀及本土化轉向——基於哲学文化視角」『理論建設』2019(05), 105-112.
- 尹新瑞(2020)「中国文化背景下的社会工作賦權：文化相關性与本土化策略」『理論建設』2020, 26(02), 96-102.
- 張紅・馬茗薈(2019)「地方性知識与農村社会工作的互构研究——基于一起建廟糾紛的案例研究」『社会工作与管理』2019, 19(01), 19-25, 54.
- 張軍(2019)「中国社会工作本土化進程中的“文化関連性”」『中国社会工作』2019(25), 22-23.
- 張明陽(2023)「社会工作者与案主的專業边界研究」西北農林科技大学社会工作学研究所2023年度修士論文.
- 張文字(2014)「本土導向的社会工作專業關係研究——以四川震後災区社会工作實踐為例」中国青年政治学院社会工作学研究所2014年度修士論文.
- 張紫琚(2018)「深圳市社会工作倫理問題研究及倫理守則本土化思考」深圳大学心理与社会学院2018年度論文.
- 趙晨哈(2017)「社会工作實踐中價值觀偏差問題研究——以雲南省S機構的社会服務為例」雲南大学民俗学与社会学院 2017年度修士論文.
- 鄭漢祺(2019)「家文化与社会工作本土化的关系研究」『法制博覽』2019(04), 291.
- 朱瑛輝(2019)「社会工作本土化中的“移情”与“反移情”——当前社会工作倫理困境研究」華中科技大学社会工作研究科2019年度修士論文.
- 庄琪・譚倩倩(2012)「从伝統文化視角解析社会工作本土化的困境」『長沙民政職業技術学院学报』2012, 19(04), 35-37.

A Fundamental Study of Cultural Issues in Social Work Practice:

Toward the Establishment of Social Work in China

HUANG Huijuan

(DOSHISHA UNIVERSITY, Graduate School of Sociology)

Keywords: social work practice, Chinese culture, establishment, literature review

This paper aims to clarify the cultural challenges faced in social work practice in China to promote the establishment of social work. A literature review was conducted and identified three significant issues pertaining to Chinese social work practice: difficulty in approaching clients, challenges in implementing client-centered support, and difficulties in maintaining professional helping relationships. Additionally, four categories concerning cultural characteristics were generated: col-

lectivist characteristics, authoritarian characteristics, characteristics of relationship structures, and ethical and moral characteristics. Furthermore, by comprehensively analyzing these challenges and cultural issues, the overall picture of the circumstances faced in practice was examined, including the relationships between the various issues. The paper also explores perspectives on understanding these cultural challenges and considers future directions.